

平成27年度 ふくしまから はじめよう。学力向上のための 「つなぐ教育」推進事業の推進地域の取組

拠点校名	広野町立広野中学校
推進協力校名	広野町立広野小学校

生徒の学習意欲を高め、確かな学力を身に付けさせる指導 ～学校・家庭・社会との連携を生かして～

昨年度からの継続指定校であり、今年度は、昨年度作成した「学びの手引き」等を年度始めから活用するなど、継続の利点を生かして取り組んだ。また、昨年度からの継続の取組については、改善点を加えるなどして実施した。さらに、今年度は新たな取組も行い、「つなぐ教育」の推進を図った。

1 取組の内容 (*は今年度の新たな取組等

(1) 教師と教師、教師と生徒をつなぐ

- ① 複数教師による授業の実践
〔数学、英語、理科、社会、技術〕
 - ・ A L Tの活用（英語は3人体制での授業）
- ② 「現職だより」による資料や情報の提供ならびに共有
- ③ 学習カウンセリングの実施（6月と11月）
 - ・ 生徒の学習の悩みや取組に対する助言・指導
- ④ スクールカウンセラーとの連携
 - ・ 全生徒対象の面談や生徒のカウンセリング
 - ・ 教師・保護者の相談への対応
- ⑤ 生徒指導連携会議の定期開催
(本校職員、SSW、SC、町保健師、心のケアセンター)
 - ・ 支援の必要な生徒や家庭への対応の協議と実践



〈英語の授業〉



〈学習カウンセリング〉

(2) 学校と学校をつなぐ ～小中高連携の取組～

- ① 広野町教育ビジョンの策定
 - ・ 幼小中を見通した一貫性のある教育活動
- ② 乗り入れ授業の実施(*)
 - ・ 広野町教育委員会から命課を受けた中学校教師が小学校で授業
(算数・音楽…T1、理科・体育…T2、英語…入学説明会での体験授業)
 - ・ 中学教師の専門性を生かした指導や中学校へのつなぎ
- ③ 小学校教師による中学校での授業
 - ・ 栄養教諭による「食育」の授業（全学級）
- ④ 小中連携の授業研究会（中学校5回、小学校3回）
- ⑤ 小中9年間を見通した各教科の全体計画、年間指導計画の作成とその活用
- ⑥ 「広野町小中9年間を通して育てる生きぬく力」の各教室掲示による意識化
- ⑦ ふたば未来学園高校との英語連携授業(双葉地区教育構想により実施)



〈事後研究会〉

(3) 学校と家庭をつなぐ ～家庭学習の充実を図る～

- ① 「自主学習ノート」を活用した家庭学習の習慣化
 - ・ 家庭学習の取組状況の把握と生徒への学習の支援
 - ・ 「自主学習ノートコンテスト」によるノート紹介と意識付け
(中学校へのつなぎを図るため小学校5・6年生が審査員として参加)

- ② 「学校だより」・「学年だより」を利用した家庭学習の啓発
- ③ ノーメディアデーの推進〔11月と2月に実施〕
 - ・ 小学校も同じ日程・内容で参加、PTAの協力も得る(＊)
- ④ 「学びの手引き」の活用



〈学びの手引き〉

(4) 学校と社会をつなぐ ～地域社会等との連携～

- ① シネリテラシー教育の授業(1年)(＊)
 - ・ 6つのテーマに分かれてのドキュメンタリー映画の制作
- ② 職場体験(2年)、福祉体験(3年)
- ③ 講演会の実施
 - ・ 教育講演会(保護者対象)講師1名
演題『子どものよいところを見つける関わり方』
 - ・ キャリア教育講演会(生徒・保護者対象)講師3名
テーマ「社会や地域に貢献する仕事」とは
- ④ 命の大切さを学ぶ授業(＊)
- ⑤ 長野弁護士会の模擬裁判による法教育
- ⑥ 広野町営学習塾の利用
 - ・ 月末の土日と長期休業中に実施、大学生による個別指導



〈シネリテラシー〉



〈キャリア教育講演会〉

(5) 生徒と教材をつなぐ ～全生徒対象による検定試験への挑戦～

- ① 「広螢タイム」の実施(＊)
 - ・ 日課表への位置付け(7:55～8:10、15:45～16:00)
 - ・ 国数英は検定問題集の活用、理社は問題集を使った学習
- ② 漢字検定、英語検定、数学検定の実施(年間各2回)
 - ・ 問題集の貸出による準備学習



〈広螢タイム〉

2 成果と課題

○ 小中連携の深まり

授業研究会や小中乗り入れ授業等、合同での様々な活動をとおして、児童生徒だけでなく、教師の意識が昨年度以上に高まり、連携が深まった。

○ 家庭との連携強化

学年・学校だよりや教育講演会を利用した家庭への啓発、ノーメディアデー等によるPTA・保護者との連携が図られ、学校と家庭の信頼が深まった。

○ 地域社会等との連携による児童生徒の変容

外部講師の活用や関係機関との交流は、児童生徒が生き方を考える良い機会であり、キャリア教育の充実につながった。新たに取り組んだシネリテラシー教育は、児童生徒の自信を高めるとともに、学習意欲の向上につながった。

○ 児童生徒一人一人の生活ならびに学力の向上

様々な連携や学習カウンセリング等の個に応じた指導・支援を通して、落ち着いた生活を送ることができ、学力の向上につながっている。

○ 保護者に対する調査から

「学校は学力向上に向けてわかりやすい授業に努めている」、「わが子は目標を持って学習に取り組んでいる」の項目がそれぞれ85パーセント、80パーセントとなっており、保護者は学校の学力向上への取組を評価している。

※ 小中連携や家庭・地域社会等との連携を通して、これまで以上に様々な活動に積極的に取り組むようになり、生徒の学習意欲と学力の向上が図られた。

▲ 学習への意欲や取組に変容が見られるようになったが、今後はさらに一人一人の児童生徒理解を深め、個に応じた学習の質の向上を図っていかなければならない。また、学力向上に数値としてどれだけ結びついたかは、今後の調査結果を分析・評価し、取組の改善を図っていかなければならない。